

平成23年6月10日
国土交通省河川局
海上保安庁

海上保安庁・国土交通省河川局連携による海底地形測量の実施について

津波は海底地形が浅くなるにつれ、津波の高さが高くなることが一般的に知られています。津波は水深の変化に応じてその高さを変え、特に水深が浅い海域での変形が大きいと言われていています。

スマトラ島沖地震では地震後、海岸線が150m以上侵食されたと言われており、今後の侵食対策を検討する上で、海底地形を詳細に把握することは重要です。

東北地方太平洋沖地震に伴う津波では、砂浜が縮小・消失するなど、海岸・沿岸地形も大きく変化している可能性が高いため、今後の侵食対策の検討や津波高を算定するシミュレーションのための海底地形データの作成、海図の補正等に活用するため、航空レーザー測量による被災後の広範囲な海底地形測量を海上保安庁及び国土交通省河川局が、連携して行うことになりましたのでお知らせします。

◆測量範囲: 仙台湾及び宮古湾(別紙-1)

◆測量実施日: 平成23年6月11日~21日

なお、天候等により実施日が変更となる場合があります。

◆使用航空機: 第七管区海上保安本部福岡航空基地所属 MA870

◆実施内容

- ・海上保安庁: 航空レーザー測量、データ解析
- ・国土交通省河川局: 透明度調査、潮位観測

<問い合わせ先>

○海上保安庁海洋情報部海洋調査課 Tel03-3541-3815(直通)

課長補佐 富山 新一 (Tel03-3541-3811(代表)内線 621)(レーザー測量関係)

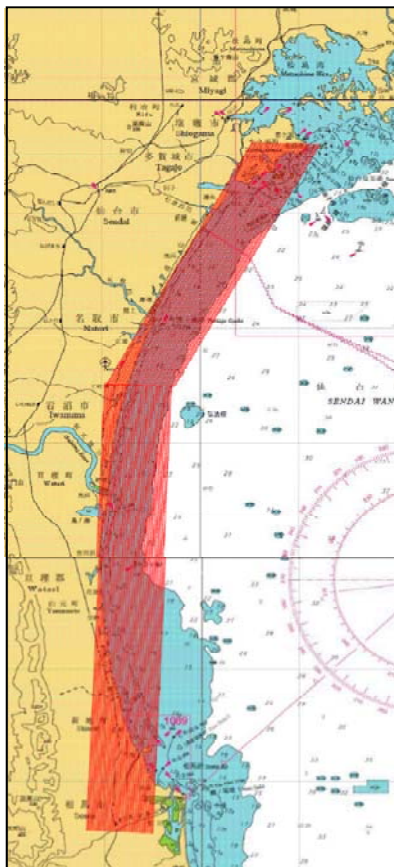
○国土交通省河川局海岸室 Tel03-5253-8471(直通)

課長補佐 横林 直樹 (Tel03-5253-8111(代表)内線 36335)(海岸関係)

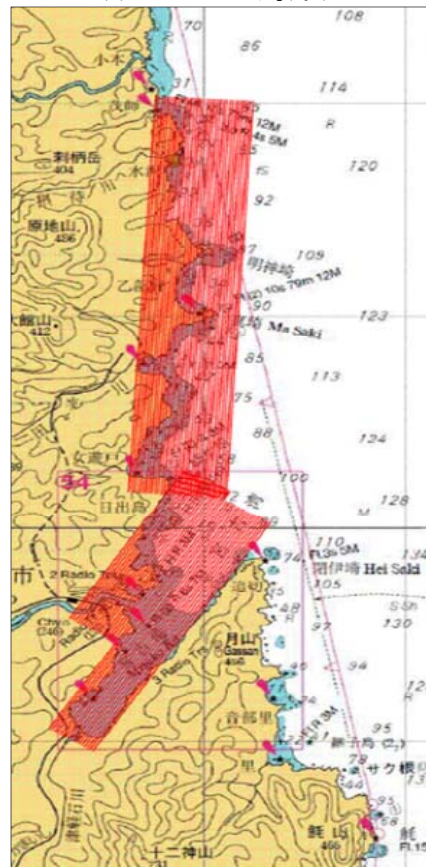
【目的】

- ・この度津波が発生した地域では、砂浜が縮小・消失するなど、海岸・沿岸地形も大きく変化している可能性が高い。
- ・スマトラ島沖地震では地震後、海岸線が150m以上侵食されたと言われており、今後の侵食対策を検討する上で海底地形を詳細に把握することが重要。
- ・津波高を算定するシミュレーションを実施する場合、精度向上のためには浅い海底地形を正確に捉えることが重要。
- ・このため、海上保安庁と河川局が連携して被災後の海底地形に関するデータを広範囲に取得し、侵食対策の検討や津波高を算定するシミュレーションのための地形データ作成等に活用する。

仙台湾測量範囲
(平野部の海岸)



宮古湾測量範囲
(リアス式の海岸)



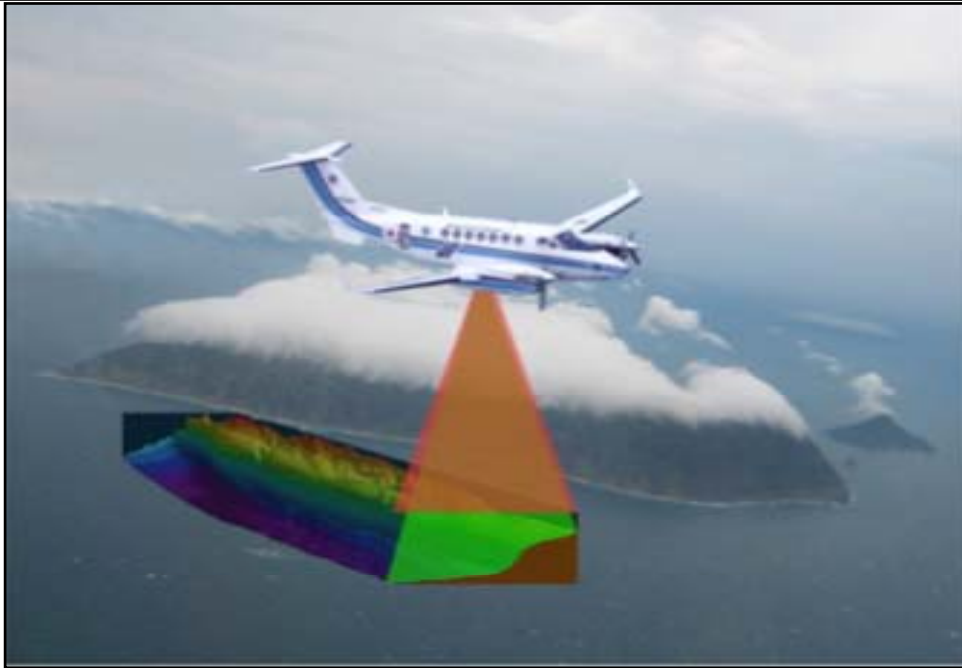
スケジュール

	6月	7月
海上保安庁		
航空レーザー測量	6/11~21	
解析		
国土交通省河川局		
透明度調査	6/3, 5	
潮位観測		

凡例

航空レーザー測量範囲

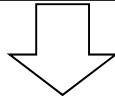




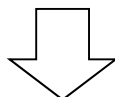
航空機を用い、
浅海域を効率的に測量する。

測量原理

航空機からレーザーを発射



海面・海底からの反射波を受信



反射波の時間差から水深を求める

